



～高崎市立中央図書館のお知らせ～

第4号

2020（令和2）年2月27日発行

編集・発行：高崎市立中央図書館

〒370-0829 高崎市高松町 5-28

T E L 027-322-7919

F A X 027-324-3423

<http://lib.city.takasaki.gunma.jp/>

図書館の仕事

市史担当編



図書館には貸出・返却の他にも様々な仕事があります。今回は、あまり皆さんには知られていないかもしれない市史担当のお仕事を紹介します。

高崎市は、2000（平成12）年に市制施行100周年を迎えました。市になったのは、1900（明治33）年です。

市制施行100周年を記念して、1989（昭和63）年度から2003（平成15）年度までの16年間にわたり『新編高崎市史』編さん事業が行われました。そのために、1989（昭和63）年4月に市史編さん室が庁舎内に設置されました。

『新編高崎市史』を編さんする目的は、大きく分けて2つありました。一つは、高崎の原始古代から2000（平成12）年までの歴史や文化を本にまとめて出版すること。もう一つは、高崎市域や全国各地に残されている高崎に関する歴史資料を調査・収集し、保存することでした。

「資料編」「通史編」「民俗調査報告書」「市史研究」など46冊もの刊行物を出版して、一つ目の目的を達成することができ、2004（平成16）年3月に市史編さん室は閉室しました。

編さん事業16年間の中で収集された資料は、ダンボール箱にしておよそ2000箱にものぼり、本に掲載できたものは、全体の10%にも満たないほどでした。これら未収録の収集資料は、高崎の歴史を語る貴重な資料であり、市民の皆様の善意の集まりでもあります。

現在、中央図書館の市史担当では、市史編さんの過程で収集した資料を市民の皆様に活用していただけるように業務を進めています。



収集資料の整理・データ化

主な仕事内容は、

- ① 収集資料を整理・データ化し、閲覧できるようにすること。
- ② 高崎の歴史に関する質問等に答えること。
- ③ 資料の散逸を防ぐために、市民の皆様からの貴重な資料の提供を受ける窓口となること。
- ④ 行政文書の中で、将来、高崎の歴史資料として残すべきものを選別・保存すること。
- ⑤ 古い資料に親しんでいただけるよう、古文書講座を開講すること などです。

皆様の歴史研究に、是非、市史の刊行物や中央図書館で保管している歴史資料をご活用ください。また、ご自宅で保管が難しい古文書等の資料がございましたらご連絡いただけますよう、よろしくお願いいたします。



古文書講座の様子

一般書

『卒業式の歴史学』 有本 真紀 著 講談社

なぜ私たちは卒業式で涙するのか？
卒業ソングをなぜ歌うのか？
卒業式が涙と結びつき、感情の共同体を創り出すことになる
道筋を、史実によって辿る 1 冊。

No
Image

『にっぽんツバメ便り ～ツバメが来た日～』
宮本桂 写真 カンゼン

春を告げる渡り鳥・ツバメがやってくる季節になりました。
これからはじまる繁殖と子育てを経て、今年、あなたの街では
何羽のツバメが巣立ちのときを迎えるのでしょうか？

No
Image

視聴覚

CD 『大人の J-POP カレンダー 3 月』
[演奏] 奥 華子 他

“出会いと初恋” “卒業ソング” という 2 テーマによ
る、時代をまたいだ名曲が収録されています。
終わりと始まりが同時にやってくる時期におすすめの
CD です。

DVD 『L I F E !』

[監督] ベン・スティラー
[原作] ジェームズ・サーバー
[出演] ベン・スティラー クリステン・ウィグ

「L I F E」誌に勤める主人公ウォルターの趣味は空想。日々、空想の中で
旅をしていた彼が、あることがきっかけで本当の旅に出て、様々な出会いや出
来事を通じて成長していく。新しい場所や出来事へ一歩踏み出したくなるよう
な映画です。

郷土

『富岡日記』 和田 英 著 筑摩書房

富岡製糸場で伝習工女となり、その後、故郷長野で日本初の
民営器械化製糸場の指導員となった女性が富岡製糸場での生
活を書いた日記です。
富岡製糸場への出立の時から、故郷へ帰る旅立ちの時まで、
富岡製糸場での暮らしがわかります。

No
Image

『人生はいーからかん』 カヲル組 著 ヘウレーカ

群馬県片品村に住むおばあちゃん「カヲルさん」が色々な悩
みに答える人生相談の本。
人生に悩みはつきものですが、カヲルさんの「いーからかん」
ながらも時に重みのある答えに元気が出るかもしれません。

No
Image

ティーンズ

『卒業するわたしたち』 加藤 千恵 著 小学館

学生たちの卒業式。また、学校だけではない様々な形の
「卒業模様」を描きとった、どこからでも読める 1 話完結、
全 13 話の短編集です。

No
Image

児童

『ともだちのひっこし』

宮野 聡子 著 PHP 研究所

ゆうちゃんとともちゃんは、赤ちゃんの時からなかよしです。
大きくなってもふたりは、きせかえごっこなどをして、毎日あ
そんでいました。しかしある日、ともちゃんがとなりまちへひ
っこしをすることになり…。

No
Image

旅立ち
のとき
の時季

図書館

今昔〈第4回〉

(前号より続く)

さて、今回は末広町にあった四代目図書館の話となります。

三代目の図書館は現在のもてなし広場に市役所、消防署、警察署とともにありました。

しかし、行政規模の拡大に伴い市庁舎のスペースが不足し、警察署が台町の高崎商業高校跡に移転し、消防署も新たに近隣市町村とともに広域消防組合として八千代町に本部が建設され移転してゆきました。

そして図書館も高崎女子高校が稲荷町に移転した後、その校舎を改築し1984(昭和59)年7月に末広町に移りました。ちなみに高女の生徒は移転時にそれぞれが机を手に持って新校舎まで歩いたそうです。

移転した高女の敷地内には図書館だけでなく、文化会館、少年科学館、プラネタリウム、中央公民館などが作られ、総合文化センターとして新たな文化や社会教育活動の拠点となりました。

図書館もOA化が進められ、利用券のバーコードにより資料の貸出や返却が行われるようになり、蔵書の検索などもコンピューターで行えるようになりました。

図書館というと、それまでは本だけのイメージでしたが、ビデオの普及や音楽のデジタル化などによる視聴覚資料の充実の機運が高まり、1990(平成2)年から全国的にも早い段階で視聴覚資料の貸出を開始しました。その後の機器の進歩は著しく、現在、ビデオテープの再生機器の生産は各メーカーとも終了しており、視聴覚資料の今後の在り方については過渡期を迎えています。

図書面では「田島文庫」や「小谷文庫」などが寄贈されたほか、1996(平成8)年度には貴重な郷土資料である「俳山亭文庫」を購入するなど、蔵書の幅を広げていきました。

また、前橋市や近隣市町村との相互利用が進められたのもこの図書館の時代でした。平成の大合併により旧町村の図書館も加わり、その連携やネットワークの構築も求められてきました。

しかし、古い校舎を改築利用していたので老朽化が進み、また、新たなメディアへの対応、時代の趨勢に追いつくための課題も多くなり、新図書館建設が急務となってきました。

そして五代目となる現在の図書館は、あの東日本大震災発生直後の2011(平成23)年4月にオープンを迎えることとなります。(続く)



末広町にあった四代目図書館

著・高崎市立中央図書館長



ティーンズ特集コーナーと読書バリアフリーコーナーが新設されました。

11月29日から、児童書コーナーとティーンズコーナーの間に新しいコーナーができました。

ティーンズ特集コーナーでは、中高生向けに特集を組んで本を紹介していきます。

読書バリアフリーコーナーは、本を読むことに困難がある人に向けて、点字の本や布絵本、録音図書など、様々な形の資料をご用意しています。ぜひご利用ください！



読書バリアフリーコーナー



ティーンズ特集コーナー



中央図書館 開館時間

火曜～金曜 10時～20時

土日祝日・月曜 10時～17時

休館日 毎月最終水曜日